

N I E実践効果測定調査結果報告
(2003年7月)

日本新聞教育文化財団N I E委員会

はじめに

今回のNIE実践効果測定調査は、2002年度に新たに実践校となった全国の213校のうち、同年9月以降に実践を始めた188校を対象にした調査で、96年度、98年度に続き3回目の実施となります。日本新聞教育文化財団NIE委員会のNIE第一専門部会が調査項目の設計、回収、集計、分析にあたりました。実際の作業は同部会の調査チームが行いました。

児童・生徒に対しては実践前と実践終了時の2回に分けて、先生に対しては実践終了後にアンケートに回答していただく形で実施しました。児童・生徒と先生のそれぞれについて、NIEの効果を調べるためです。

2回にわたって調査にご協力いただいた実践校の方々にあらためてお礼申し上げます。おかげさまで貴重なデータを得ることができたと確信しております。

新聞界がNIEに取り組み始めてから03年で15年目。その間、教育界のご理解をいただき、実践は全国に広がり、その教科、領域も多様になってきました。02年度からは小・中学校で、03年度からは高校で、新学習指導要領が導入され、「総合的な学習の時間」が本格的に始まったこともあり、教育界からのNIEに対する期待が高まっていることを感じております。

今回の調査結果からも新聞活用授業は、子どもたちに「生きる力をはぐくむ」うえで有効であることが実証されました。

次ページ以降のデータ、分析をお読みいただき、今後のNIE実践に役立てていただければ幸いです。

2002年度NIE実践効果測定調査

調査概要

(1) 調査対象

2002年度新規NIE実践校で2002年9月以降に実践を始めた小・中・高校
188校

(2) 調査方法

郵送法（実践教師および児童・生徒が各学級単位で個人記述）

(3) 回答校・回答者数

実践前 40都道府県125校

実践後 39都道府県104校

児童・生徒

		実践前	実践後
小学校	男性	638	495
	女性	580	454
中学校	男性	632	463
	女性	799	609
高等学校	男性	789	605
	女性	773	641
全体	男性	2059	1563
	女性	2152	1704

教師

	学校数	回答教師数
小学校	33	114
中学校	35	93
高等学校	36	91
不明		4
計	104	302

(4) 調査時期

2002年9月～2003年3月

(5) 調査項目

児童・生徒編

- 1 新聞を読む頻度
- 2 新聞を読む時間
- 3 よく読む記事
- 4 情報をなんで知るか
- 5-1 新聞記事をめぐる対話の頻度
- 5-2 新聞記事をめぐる話し相手（実践前）
- 5-3 新聞記事をめぐる話し相手（実践後）
- 6 学習能力の向上（好きになったこと）
- 7 NIEによる関心の変化
- 8 NIEの授業評価
- 9 授業で時事問題やニュースを取り上げることへの評価

教師編

- 1-1 新聞提供以前の新聞活用実績
- 1-2 NIEの経験年数
- 2-1 新聞の読み方の変化（読む頻度）
- 2-2 新聞の読み方の変化（注意して読む記事）
- 3-1 新聞活用動向（活用頻度）
- 3-2 新聞活用動向（実践時間）
- 3-3 新聞活用動向（実践回数）
- 3-4 新聞活用動向（教科・領域）
- 4 新聞活用後の児童・生徒の変化
- 5-1 新聞活用の難しさと期待（難しさ）
- 5-2 新聞活用の難しさと期待（期待）

以上

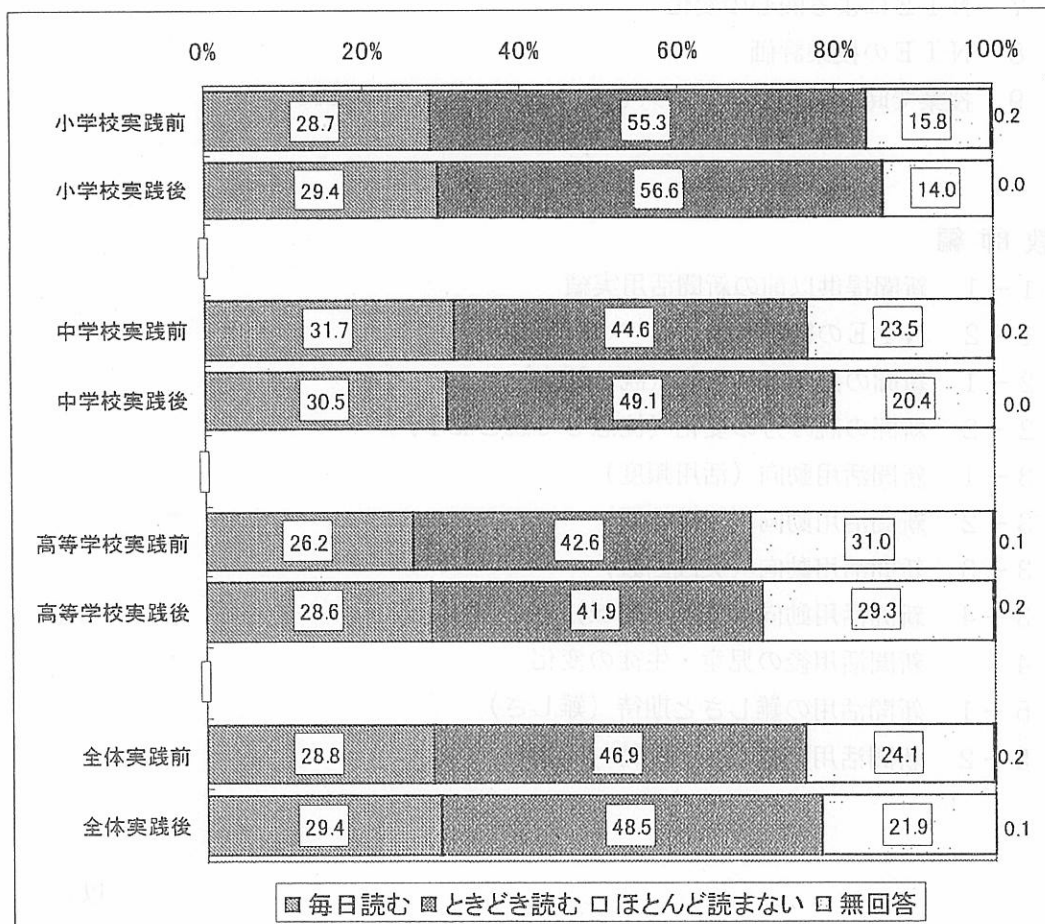
《児童・生徒用》

1. 新聞を読む頻度の変化

全体を見ると、「毎日読む」はNIE実践前の28.8%から実践後は29.4%となった。「ときどき読む」は実践前の46.9%から実践後は48.5%となった。「毎日読む」と「ときどき読む」を合わせるとNIE実践後の児童・生徒は77.9%にのぼり、実践前の75.7%に比べ2.2ポイント拡大した。

学校別に見ると、「毎日読む」は小学校が実践前の28.7%から実践後は29.4%に、高校は実践前の26.2%から実践後は28.6%にそれぞれ拡大したが、中学校は受験勉強に追われるためか、実践前の31.7%から実践後は30.5%と縮小した。しかし、中学校の「ときどき読む」は実践前の44.6%から実践後は49.1%に拡大しており、「毎日読む」と「ときどき読む」を合わせると中学校は実践前の76.3%から実践後は79.6%に3.3ポイント拡大した。

1. 新聞を読む頻度（児童・生徒）



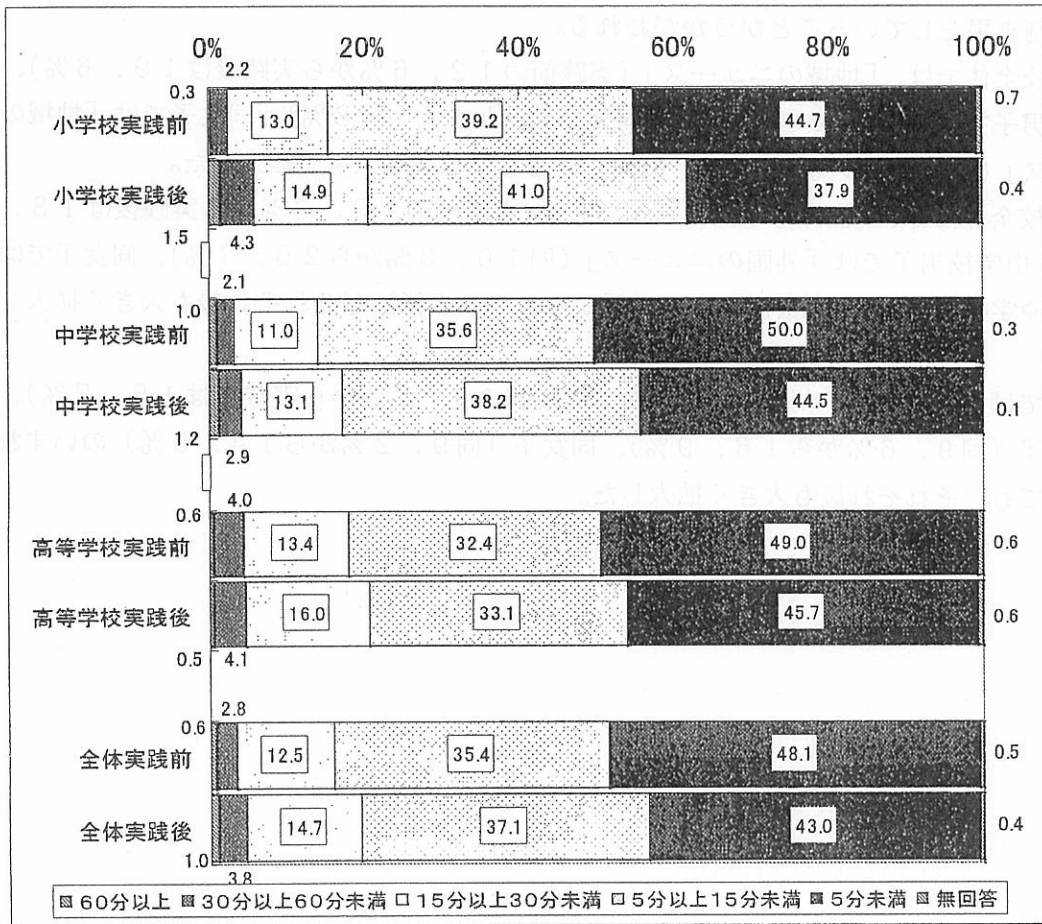
2. 新聞を読む時間の変化

全体を見ると、1日の新聞閲読時間は「5分未満」が実践前の48.1%から実践後は43.0%に縮小した。

その分「60分以上」は実践前の0.6%が実践後は1.0%に、「30分以上60分未満」は2.8%が3.8%に、「15分以上30分未満」は12.5%が14.7%に、「5分以上15分未満」は35.4%が37.1%に、それぞれ拡大している。

このように、NIE実践後は実践前に比べ閲読時間が伸びており、少しでも長く新聞を読む習慣が身に付いていくことがわかる。学校別でもほぼ同様の傾向を示している。

2. 新聞を読む時間（児童・生徒）



3. よく読む記事の変化

全体では、読む記事について「ラジオ・テレビ欄」が実践前、実践後ともにトップだった。実践前はこれに「スポーツ欄」「まんが」「天気予報」「事件・事故欄」と続いたが、実践後では「スポーツ欄」に続いて「事件・事故欄」「まんが」「天気予報」の順だった。

男女別に見ると、男子では「ラジオ・テレビ欄」に次いで「スポーツ欄」が突出している。一方、女子では30%台の二番手集団の中に「芸能欄」が含まれているのが特徴だ。

実践前後の違いを見ると、全体では、「教育や学校のニュース」(実践前の9.7%から実践後は15.7%)が6.0ポイント、「外国のニュース」(同9.5%から14.5%)が5.0ポイント拡大している。これら二つのニュースについては、学校別に見てもすべての校種で大きく拡大しており、NIEが児童・生徒の関心を高め、社会との接点となる役割を果たしていることがうかがわれる。

小学校全体では、「地域のニュース」(実践前の12.6%から実践後は19.6%)、小学校男子では、「外国のニュース」(同9.1%から15.8%)、同女子では「地域のニュース」(同14.8%から24.0%)がそれぞれ最も大きく拡大した。

中学校全体では、「教育や学校のニュース」(実践前の10.3%から実践後は18.8%)、中学校男子では「外国のニュース」(同10.3%から20.7%)、同女子では「教育や学校のニュース」(同11.0%から22.3%)がそれぞれ最も大きく拡大した。

高校では、「外国のニュース」が全体(実践前の9.4%から実践後は15.7%)、高校男子(同9.6%から16.9%)、同女子(同9.2%から14.5%)のいずれにおいても、それぞれ最も大きく拡大した。

3. よく読む記事（児童・生徒）

	政治	経済	外国	社会	事件・事故	スポーツ	地域	教育や学校	福祉・健康
小学校実践前	8.0	4.2	9.6	10.9	38.5	44.3	12.6	8.8	2.3
小学校実践後	6.8	4.4	12.5	14.3	41.0	44.6	19.6	12.4	4.0
中学校実践前	10.4	5.1	9.5	10.7	33.5	42.3	11.0	10.3	2.7
中学校実践後	12.6	7.6	14.8	15.5	36.1	44.1	12.0	18.8	2.9
高校実践前	12.7	7.6	9.4	18.3	38.1	40.8	16.0	10.0	3.6
高校実践後	12.9	8.9	15.7	19.9	37.9	38.5	16.5	15.5	5.6
全体実践前	10.6	5.8	9.5	13.6	36.6	42.3	13.3	9.7	2.9
全体実践後	11.0	7.2	14.5	16.8	38.2	42.1	15.9	15.7	4.3
	科学	文化・芸術	暮らし・家庭	読書	芸能	投書	社説・評論	コラム	フォーラム
小学校実践前	7.7	3.4	4.7	4.5	20.1	1.6	0.7	2.5	0.2
小学校実践後	8.7	5.5	7.3	6.3	23.3	2.4	0.7	1.1	0.2
中学校実践前	2.8	5.0	2.2	4.1	26.8	5.8	1.3	3.6	0.1
中学校実践後	3.4	3.0	2.7	4.2	27.1	5.4	2.5	4.7	0.1
高校実践前	3.1	6.0	2.1	2.7	27.1	5.3	3.1	6.1	0.7
高校実践後	3.5	7.6	2.3	3.7	25.8	6.3	3.6	6.3	0.7
全体実践前	4.3	4.9	2.9	3.7	25.0	4.4	1.8	4.2	0.4
全体実践後	5.0	5.5	3.9	4.6	25.5	4.9	2.4	4.3	0.4
	人物紹介	ラ・テ欄	俳句・短歌	囲碁・将棋	趣味・娯楽	まんが	天気予報	広告	その他
小学校実践前	4.5	67.5	2.1	8.5	4.7	61.0	46.6	24.9	1.6
小学校実践後	4.4	68.0	3.1	7.8	6.2	61.3	41.0	23.6	0.7
中学校実践前	6.3	80.9	1.6	5.7	8.0	40.0	34.1	23.7	2.5
中学校実践後	8.8	80.8	1.7	5.5	11.1	31.8	28.4	25.0	2.5
高校実践前	5.2	78.4	0.8	2.4	10.7	21.3	34.5	21.7	1.4
高校実践後	6.3	77.2	0.9	2.3	11.6	20.9	31.7	23.1	2.2
全体実践前	5.4	76.1	1.4	5.3	8.1	39.1	37.9	23.3	1.8
全体実践後	6.6	75.7	1.8	5.0	9.9	36.2	33.3	23.9	1.9

	政治	経済	外国	社会	事件・事故	スポーツ	地域	教育や学校	福祉・健康
小学校男子実践前	9.7	5.3	9.1	10.2	35.7	63.0	10.7	6.9	1.1
小学校男子実践後	9.1	6.5	15.8	15.2	38.8	62.6	15.6	9.3	2.6
中学校男子実践前	12.7	7.3	10.3	11.1	31.0	61.2	11.1	9.3	0.8
中学校男子実践後	17.7	9.1	20.7	17.5	35.4	65.4	11.9	14.3	0.9
高校男子実践前	17.1	10.3	9.6	19.8	35.5	56.3	14.7	6.8	2.0
高校男子実践後	16.2	13.4	16.9	20.5	35.2	56.0	15.5	12.7	3.1
全体男子実践前	13.5	7.8	9.7	14.1	34.2	59.9	12.3	7.6	1.4
全体男子実践後	14.4	9.9	17.7	17.9	36.4	60.9	14.5	12.1	2.3
	科学	文化・芸術	暮らし・家庭	読書	芸能	投書	社説・評論	コラム	フォーラム
小学校男子実践前	10.8	1.6	2.4	2.5	9.1	1.1	0.8	2.8	0.3
小学校男子実践後	13.3	4.4	4.0	3.6	11.9	1.6	1.0	1.2	0.2
中学校男子実践前	4.4	1.9	1.3	2.2	16.0	2.5	0.5	3.3	0.0
中学校男子実践後	6.3	2.2	1.3	1.5	14.9	1.1	1.9	4.8	0.2
高校男子実践前	4.9	3.8	1.4	1.6	19.5	2.8	2.4	6.7	0.5
高校男子実践後	5.6	4.8	0.7	2.1	18.0	3.6	4.1	6.3	0.8
全体男子実践前	6.6	2.5	1.7	2.1	15.2	2.2	1.3	4.5	0.3
全体男子実践後	8.3	3.9	1.9	2.4	15.2	2.2	2.5	4.2	0.4
	人物紹介	ラ・テ欄	俳句・短歌	囲碁・将棋	趣味・娯楽	まんが	天気予報	広告	その他
小学校男子実践前	3.4	66.0	1.9	14.6	6.0	62.9	45.8	23.5	1.3
小学校男子実践後	2.6	66.3	3.0	13.3	7.5	63.2	36.4	22.8	0.0
中学校男子実践前	3.0	77.5	1.4	10.1	9.8	40.5	33.9	22.6	1.6
中学校男子実践後	5.2	72.8	1.9	9.5	12.5	33.0	26.8	24.0	3.0
高校男子実践前	3.2	74.5	0.8	4.1	11.8	20.9	32.4	17.9	1.6
高校男子実践後	3.1	73.1	0.7	4.3	12.9	19.3	30.6	20.8	2.1
全体男子実践前	3.2	72.8	1.3	9.2	9.4	39.9	37.0	21.1	1.5
全体男子実践後	3.6	70.8	1.8	8.7	11.1	37.3	31.3	22.4	1.7

	政治	経済	外国	社会	事件・事故	スポーツ	地域	教育や学校	福祉・健康
小学校女子実践前	6.2	2.9	10.2	11.7	41.6	23.8	14.8	10.9	3.6
小学校女子実践後	4.4	2.2	9.0	13.4	43.4	24.9	24.0	15.9	5.5
中学校女子実践前	8.6	3.4	8.9	10.4	35.4	27.3	10.9	11.0	4.1
中学校女子実践後	8.7	6.6	10.3	14.0	36.6	27.9	12.2	22.3	4.4
高校女子実践前	8.3	4.9	9.2	16.8	40.8	25.0	17.3	13.2	5.2
高校女子実践後	9.8	4.7	14.5	19.3	40.4	22.0	17.3	18.1	8.0
全体女子実践前	7.9	3.8	9.3	13.1	39.0	25.5	14.3	11.8	4.4
全体女子実践後	8.0	4.7	11.6	15.8	39.8	24.9	17.3	19.0	6.0
	科学	文化・芸術	暮らし・家庭	読書	芸能	投書	社説・評論	コラム	フォーラム
小学校女子実践前	4.3	5.3	7.2	6.7	32.2	2.2	0.5	2.1	0.2
小学校女子実践後	3.7	6.6	10.8	9.3	35.7	3.3	0.4	0.9	0.2
中学校女子実践前	1.5	7.4	3.0	5.6	35.4	8.4	2.0	3.9	0.1
中学校女子実践後	1.1	3.6	3.8	6.2	36.3	8.7	3.0	4.6	0.0
高校女子実践前	1.2	8.3	2.8	3.8	34.9	7.9	3.8	5.6	0.9
高校女子実践後	1.4	10.3	3.9	5.1	33.1	8.9	3.1	6.4	0.6
全体女子実践前	2.1	7.2	4.1	5.3	34.4	6.6	2.2	4.0	0.4
全体女子実践後	1.9	6.9	5.7	6.6	34.9	7.3	2.3	4.3	0.3
	人物紹介	ラ・テ欄	俳句・短歌	囲碁・将棋	趣味・娯楽	まんが	天気予報	広告	その他
小学校女子実践前	5.7	69.1	2.4	1.7	3.3	59.0	47.6	26.4	19.0
小学校女子実践後	6.4	69.8	3.1	1.8	4.8	59.3	46.0	24.4	1.5
中学校女子実践前	8.9	83.5	1.8	2.3	6.6	39.5	34.3	24.5	3.3
中学校女子実践後	11.5	86.9	1.5	2.5	10.0	30.9	29.6	25.8	2.1
高校女子実践前	7.2	82.4	0.8	0.8	9.6	21.6	36.6	25.6	1.2
高校女子実践後	9.4	81.1	1.1	0.5	10.3	22.3	32.8	25.3	2.2
全体女子実践前	7.4	79.2	1.6	1.6	6.8	38.3	38.7	25.4	2.1
全体女子実践後	9.3	80.2	1.8	1.5	8.7	35.2	35.2	25.2	2.0

4. 情報をなんで知るか

社会の出来事をもっと詳しく知ろうとする場合にそれを知る方法を尋ねたところ、新聞は、「地域・地元の出来事」についてNIE実践前の13.4%から実践後は16.3%に、「日本国内の出来事」について同13.8%から15.7%に、「外国の出来事」について同10.9%から12.6%に、それぞれ拡大した。

全体に「スポーツニュース」をはじめとしてテレビ・ラジオに依存する割合は高いが、NIE実践前後の変化をみると、新聞を通じて、児童・生徒の間に身近な地域・地元の出来事、日本国内や外国の出来事に目を向ける意識が高まったことがうかがわれる。

4. 情報を何で知るか（児童・生徒）

(単位 %)

地域・地元の出来事

	新聞	雑誌	本	テレビ・ラジオ	インターネット	友達	家族	学校・塾の先生	行政広報	無回答
小学校実践前	15.0	1.7	4.1	23.8	5.6	3.6	37.0	1.4	6.8	0.9
小学校実践後	18.2	1.5	3.0	20.3	8.3	5.3	32.3	2.0	8.9	0.2
中学校実践前	9.9	2.0	1.9	18.2	7.6	10.1	34.7	1.5	13.3	0.8
中学校実践後	18.2	1.5	3.0	20.3	8.3	5.3	32.3	2.0	8.9	0.2
高校実践前	15.4	1.0	1.7	22.2	5.6	14.0	28.7	1.3	9.4	1.0
高校実践後	18.2	1.2	2.0	22.3	5.7	11.5	27.6	0.6	10.3	0.8
全体実践前	13.4	1.6	2.4	21.3	6.3	9.7	33.1	1.4	10.0	0.8
全体実践後	16.3	1.3	2.4	20.7	6.7	8.6	30.0	1.2	12.3	0.3

日本国内の出来事

	新聞	雑誌	本	テレビ・ラジオ	インターネット	友達	家族	学校・塾の先生	行政広報	無回答
小学校実践前	16.8	2.2	3.3	53.7	10.6	1.1	9.8	1.1	0.2	1.2
小学校実践後	19.8	1.7	2.0	57.4	9.9	1.2	6.3	1.1	0.4	0.2
中学校実践前	12.8	2.2	2.2	64.2	12.3	1.1	4.1	0.4	0.0	0.7
中学校実践後	15.9	0.8	0.8	64.3	12.8	1.4	2.8	0.6	0.7	0.0
高校実践前	12.3	1.8	1.5	68.8	8.7	2.1	3.2	0.6	0.1	0.8
高校実践後	12.4	1.2	1.4	66.9	12.2	1.7	2.9	0.6	0.3	0.5
全体実践前	13.8	2.0	2.3	62.9	10.5	1.5	5.4	0.7	0.1	0.9
全体実践後	15.7	1.2	1.4	63.3	11.7	1.4	3.9	0.7	0.5	0.2

外国の出来事

	新聞	雑誌	本	テレビ・ラジオ	インターネット	友達	家族	学校・塾の先生	行政広報	無回答
小学校実践前	14.9	1.0	2.3	62.2	8.7	0.6	7.5	1.6	0.2	1.1
小学校実践後	18.2	1.6	1.5	62.7	10.5	0.7	3.6	0.6	0.1	0.4
中学校実践前	9.6	1.5	1.7	68.3	14.0	0.7	3.1	0.6	0.0	0.5
中学校実践後	11.7	0.7	0.8	67.9	14.6	0.5	2.2	1.3	0.2	0.1
高校実践前	8.8	1.5	1.6	70.7	12.2	1.2	2.4	0.6	0.0	0.9
高校実践後	9.1	1.2	1.3	70.1	14.0	1.0	1.7	1.1	0.1	0.6
全体実践前	10.9	1.4	1.8	67.4	11.8	0.9	4.1	0.9	0.0	0.8
全体実践後	12.6	1.1	1.2	67.2	13.2	0.8	2.4	1.0	0.1	0.3

スポーツニュース

	新聞	雑誌	本	テレビ・ラジオ	インターネット	友達	家族	学校・塾の先生	行政広報	無回答
小学校実践前	23.1	1.6	1.4	63.5	3.5	1.1	4.4	0.4	0.2	0.7
小学校実践後	24.1	3.0	0.5	64.1	2.2	1.7	2.8	0.6	0.2	0.7
中学校実践前	15.6	1.9	0.7	72.4	5.2	1.9	1.7	0.1	0.1	0.5
中学校実践後	14.8	2.2	0.5	74.0	4.5	2.3	1.4	0.2	0.1	0.0
高校実践前	12.4	2.0	0.6	74.7	3.7	3.1	2.2	0.1	0.1	1.0
高校実践後	11.7	2.0	0.4	74.0	5.9	3.4	1.7	0.2	0.0	0.9
全体実践前	16.6	1.9	0.9	70.7	4.2	2.1	2.7	0.2	0.1	0.7
全体実践後	16.3	2.4	0.5	71.1	4.3	2.5	1.9	0.3	0.1	0.5

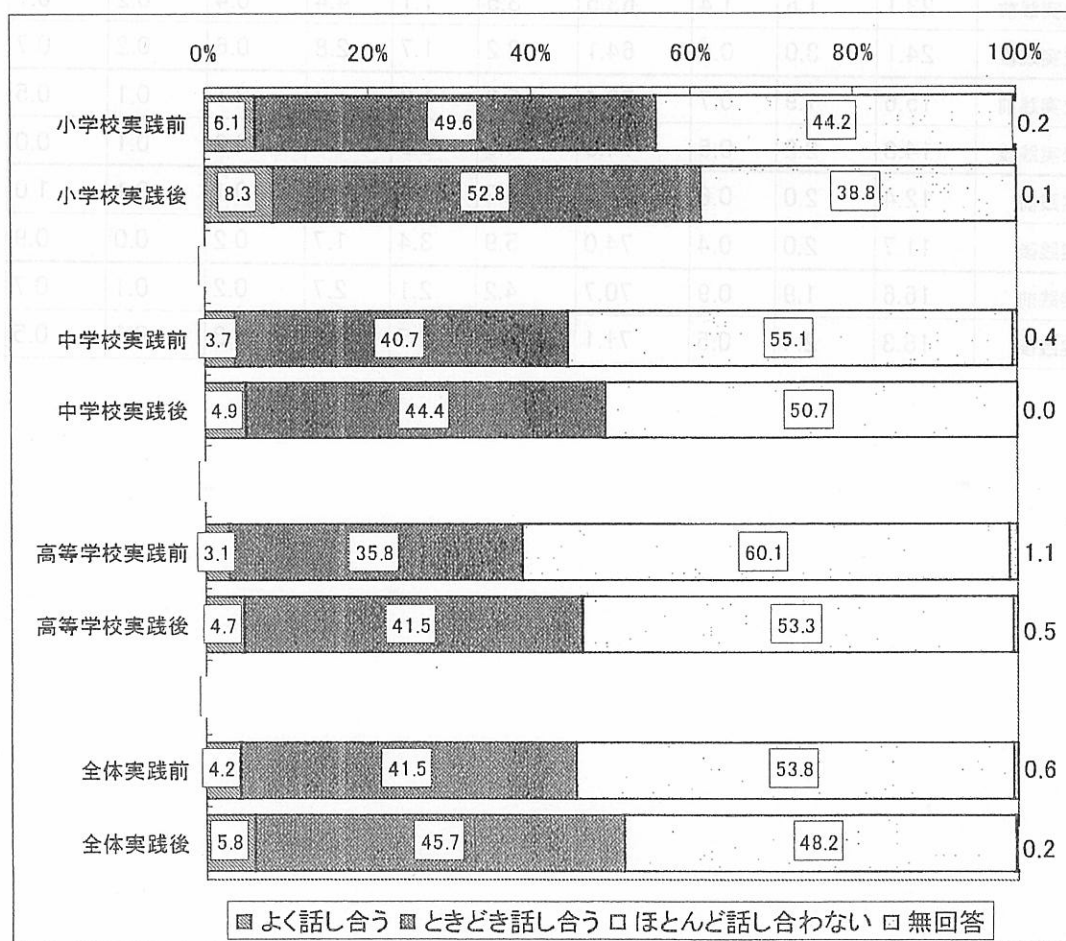
5. 新聞記事をめぐる対話の頻度の変化

全体を見ると、新聞で読んだことについて、ほかの人と「よく話し合う」と答えた児童・生徒が実践前の4.2%から実践後は5.8%で1.6ポイント、「ときどき話し合う」が同41.5%から45.7%で4.2ポイント、それぞれ拡大している。

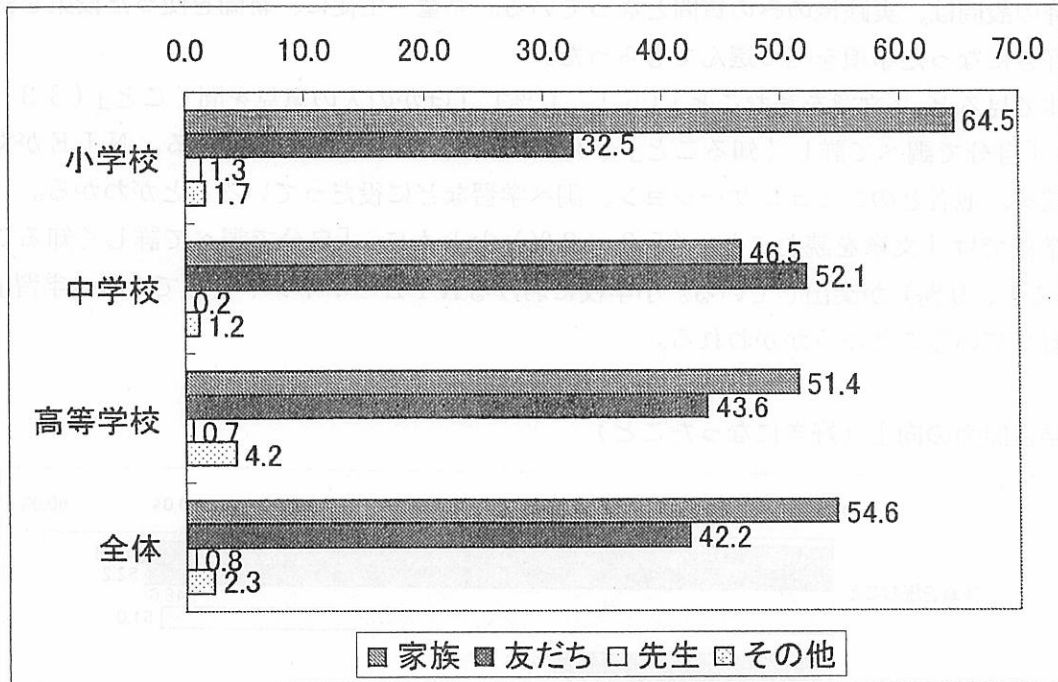
学校別でも同様の傾向が見られる。「よく話し合う」と「ときどき話し合う」を合計して実践前後を比べると、高等学校で7.3ポイントと大きく拡大していることが目立つ。

あわせて、「よく話し合う」「ときどき話し合う」と答えた児童・生徒に誰と話し合うかを尋ねたところ、実践前、実践後共に全体では「家族」がトップで、実践前の54.6%から実践後は73.2%で18.6ポイント拡大した。また、「友だち」が同42.2%から68.4%で26.2ポイント、「先生」が同0.8%から12.5%で11.7ポイントといずれも大きく拡大している。この設問項目は複数回答だが、小学校で「友だち」と答えた児童は実践前の32.5%から実践後は65.0%と大きく増えており、新聞に出ていたことを「友だち」と話し合う習慣も身についたことがうかがわれる。

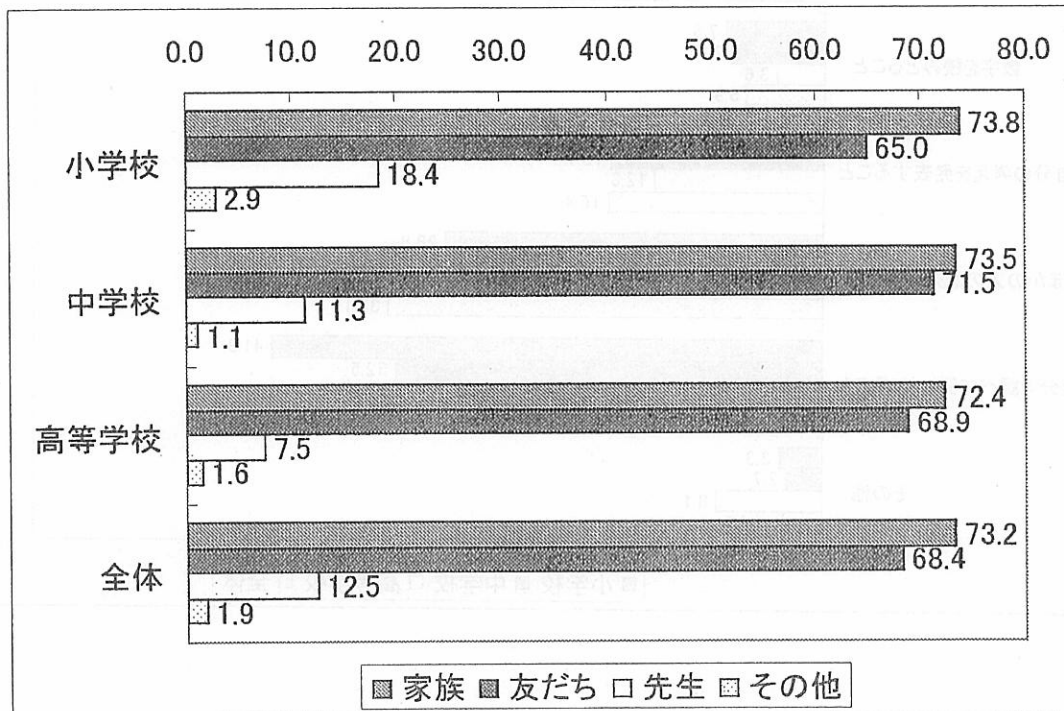
5-1. 新聞記事をめぐる対話の頻度（児童・生徒）



5-2. 新聞記事をめぐる話し相手（児童・生徒） 【実践前】 （単位 %）



5-3. 新聞記事をめぐる話し相手（児童・生徒） 【実践後】 （単位 %）



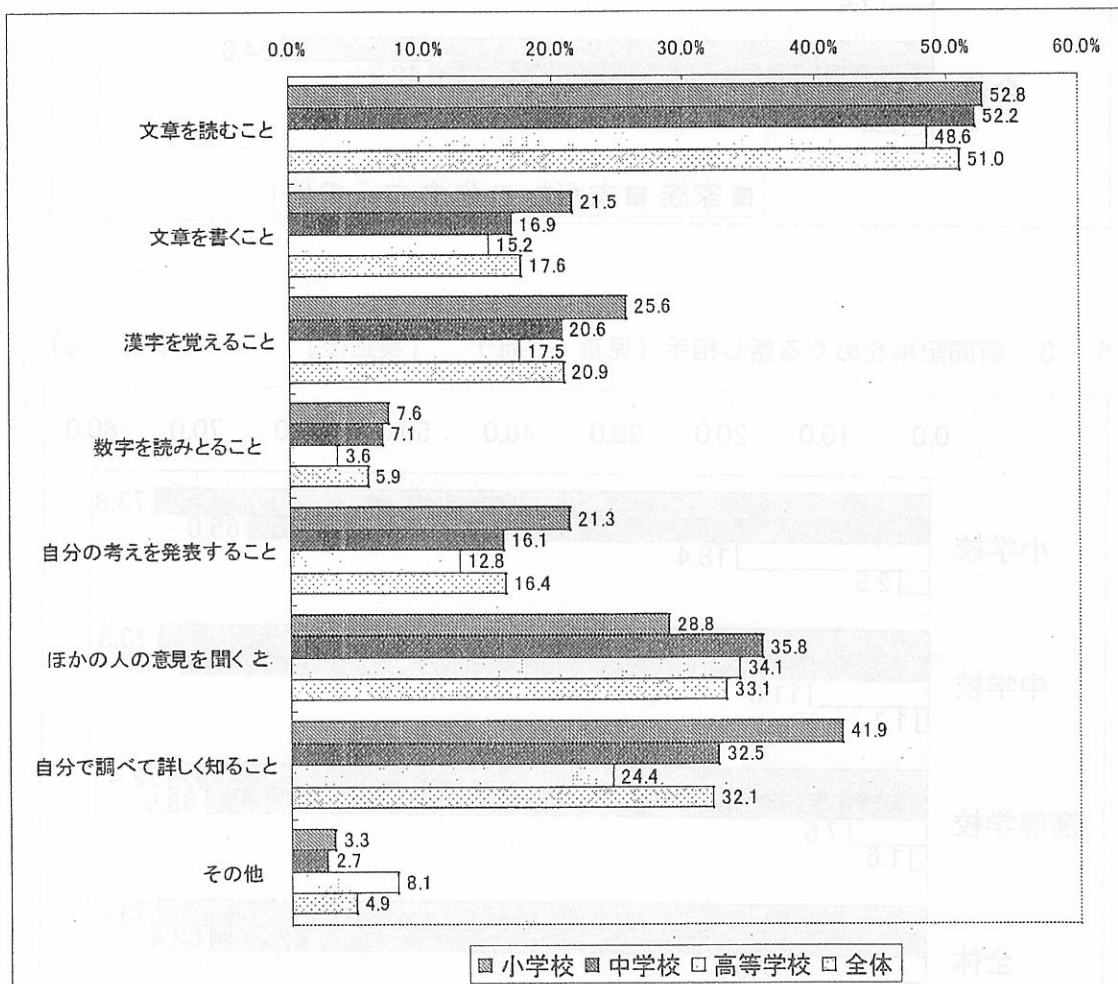
6. 実践後好きになったこと

以降の設問は、実践後のみの質問となっている。児童・生徒に、新聞を使った授業を受けて好きになった事項を三つ選んでもらった。

全体で見ると、「文章を読むこと」(51.0%)、「ほかの人の意見を聞くこと」(33.1%)「自分で調べて詳しく知ること」(32.1%)が上位を占めている。NIEが文章の読解、他者とのコミュニケーション、調べ学習などに役だっていることがわかる。

小学校では「文章を読むこと」(52.8%)とともに、「自分で調べて詳しく知ること」(41.9%)が突出している。小学校におけるNIEのポイントとして「調べ学習」が定着していることがうかがわれる。

6. 学習能力の向上(好きになったこと)



7. NIEによる関心の変化

新聞を使った授業を受けて、関心を持つようになった事柄については、「事件・事故など社会のこと」がすべての校種で5割を超え、トップとなっている。

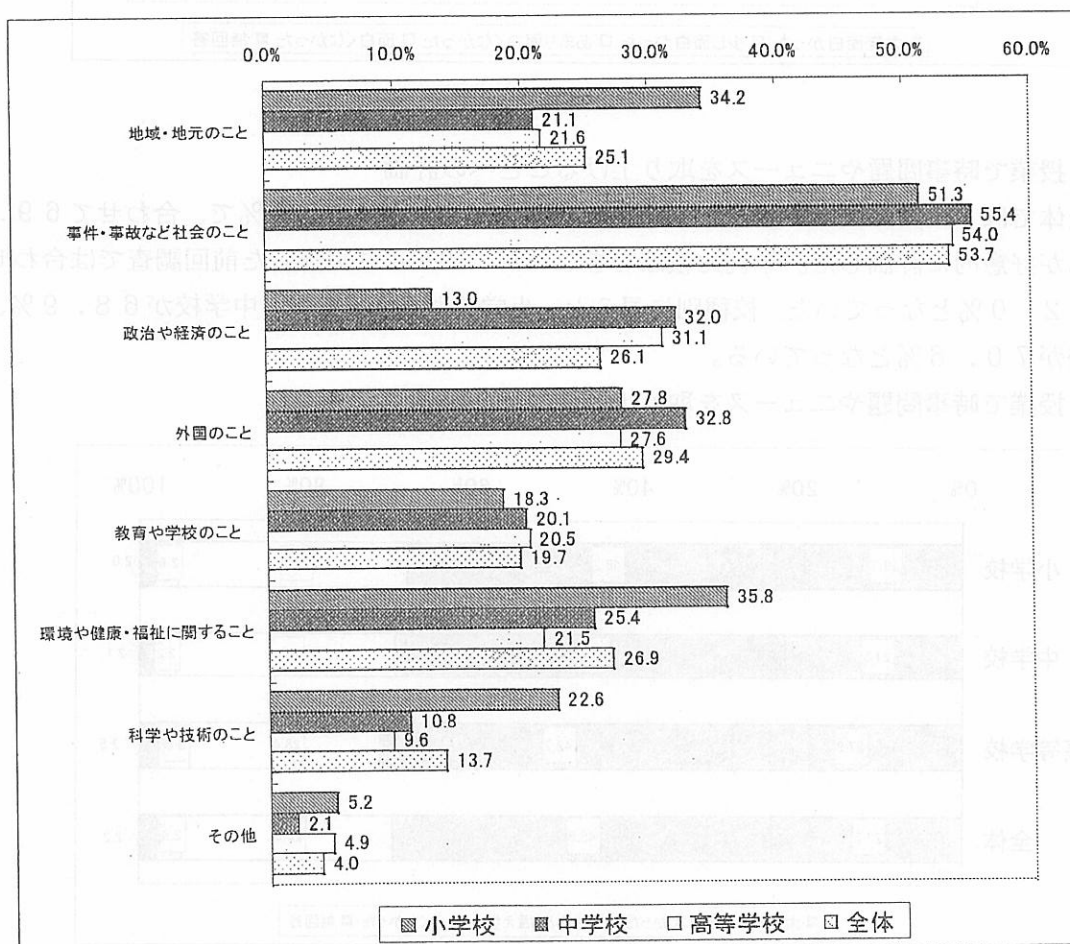
校種別に見ると「事件・事故など社会のこと」のほかに、小学校では「環境や健康・福祉に関すること」(35.8%)「地域・地元のこと」(34.2%)が、中学校では「外国のこと」(32.8%)「政治や経済のこと」(32.0%)が、高校では「政治や経済のこと」(31.1%)が3割を超えている。

小学生から中学生、高校生と年齢が上がるにつれて、関心の対象も身近なことから、より広範囲で深いものになっていく傾向が見られる。

小学校では、「政治や経済のこと」以外は、どれも高い数値を示しており、新聞を通じて多くの事柄に関心を持つようになったことがわかる。

中学校、高校では、「政治や経済のこと」「外国のこと」が高い数値が示しており、教科書で教わった内容を、新聞を使うことによってさらに理解を深め、関心を高めることにつながっているようだ。

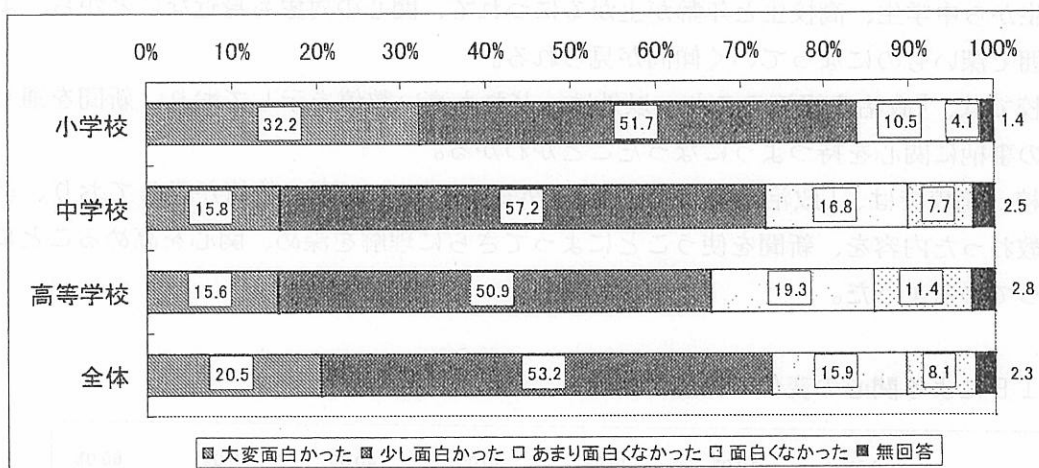
7. NIEによる関心の変化(児童・生徒)



8. N I Eの授業評価

全体では「大変面白かった」が20.5%、「少し面白かった」が53.2%で、面白かったという評価が合わせて7割強を占めている。面白かったという評価について校種別に見ると、小学校(83.9%)、中学校(73.0%)、高校(66.5%)となっており、とくに小学生にとっては、N I Eの授業が新鮮な体験であることがうかがわれる。

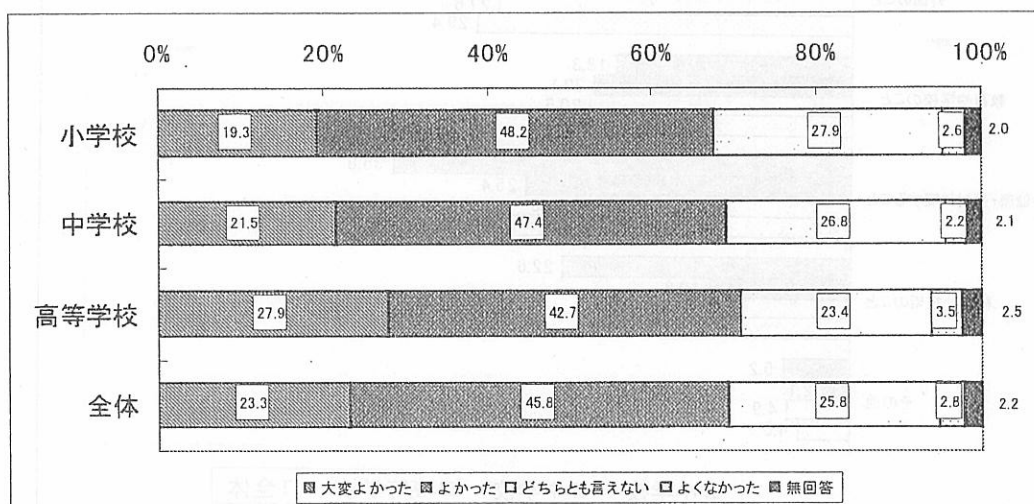
8. N I Eの授業評価(児童・生徒)



9. 授業で時事問題やニュースを取り上げることへの評価

全体では「大変よかった」が23.3%、「よかった」が45.8%で、合わせて69.1%が好意的に評価した。単純比較はできないが、1998年に実施した前回調査では合わせて62.0%となっていた。校種別に見ると、小学校が67.5%、中学校が68.9%、高校が70.6%となっている。

9. 授業で時事問題やニュースを取り上げることへの評価



《教師用》

1. 新聞提供以前の実践の有無とN I E授業の経験

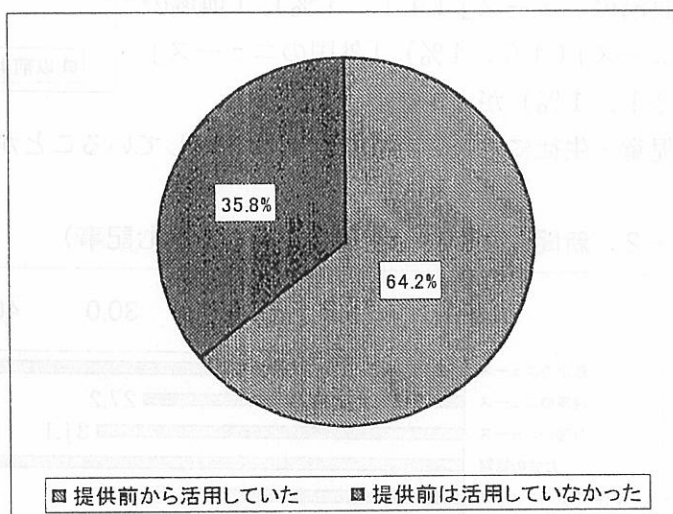
学校に新聞が提供される以前から、6割以上の学校がすでに何らかの形で新聞を活用していたと回答した。

N I Eの授業経験年数では、約7割が1年目以内と答えており、今回実践校になって、新たにN I Eへの取り組みを始めた学校が多いことが分かる。

1-2. N I Eの経験年数

数	回答者数	比率
0年	9	3.0%
1年	208	68.9%
2年	12	4.0%
3年	18	6.0%
4年	6	2.0%
5年	6	2.0%
6年	5	1.7%
7年	3	1.0%
8年	2	0.7%
9年	3	1.0%
10年	10	3.3%
11年	1	0.3%
12年	3	1.0%
13年	1	0.3%
14年	1	0.3%
15年	2	0.7%
16年	0	0.0%
17年	1	0.3%
18年	1	0.3%
19年	0	0.0%
20年	4	1.3%
無回答	6	2.0%

1-1. 新聞提供以前の新聞活用実績



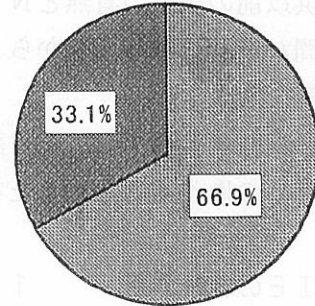
2. 新聞の読み方の変化

学校の先生にN I Eの新聞提供以前と以後での新聞の読み方の変化を尋ねたところ、約3分の2が「以前より読むようになった」と答えている。

また、どのような記事に注意して新聞を読むようになったかとの質問では、「教育や学校のニュース」(59.3%)、「社会の話題」(53.6%)が5割を超えた。続いて「政治のニュース」(41.1%)、「地域のニュース」(40.4%)、「外国のニュース」(31.1%)が上位を占めている。

児童・生徒にとって身近な話題に注目していることがうかがわれる。

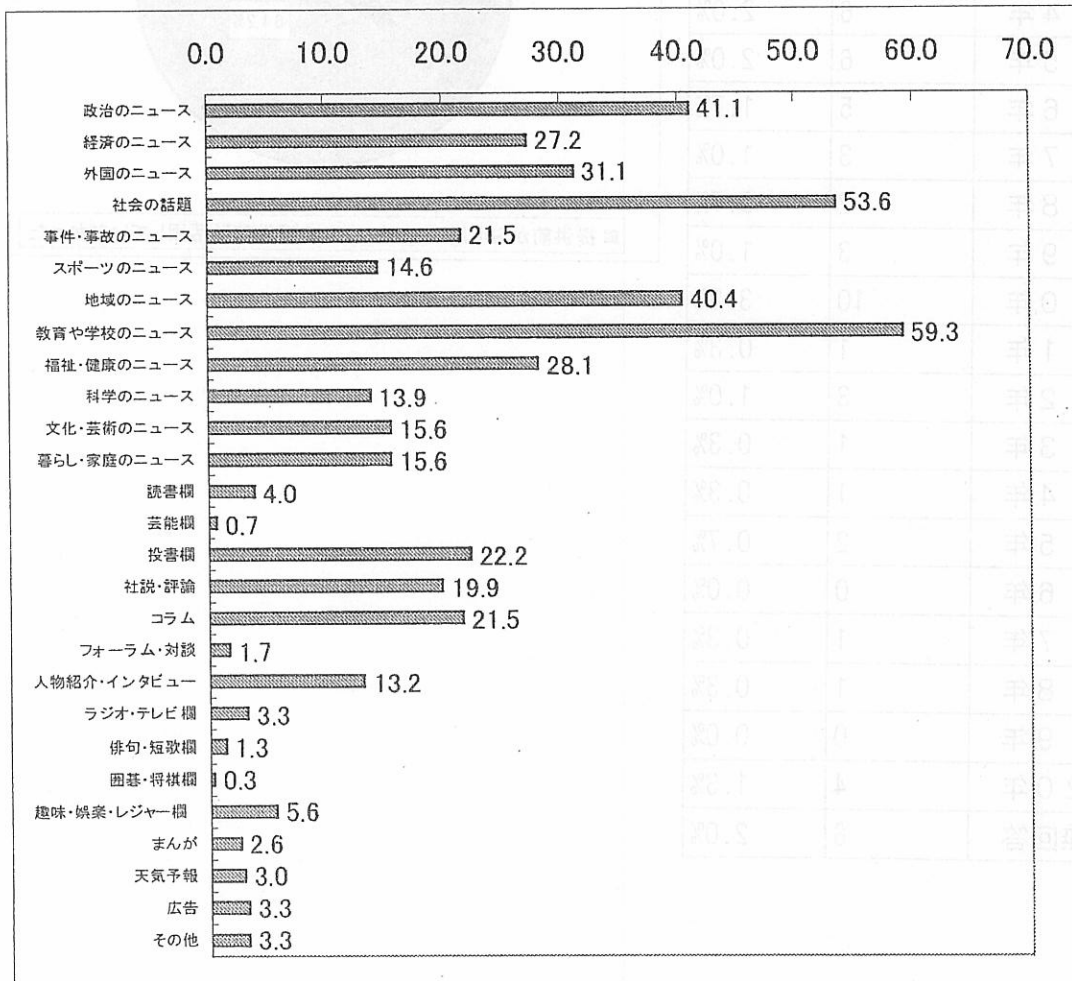
2-1. 新聞の読み方の変化(読む頻度)



■ 以前より読むようになった □ 以前と変わらない

2-2. 新聞の読み方の変化(注意して読む記事)

(単位 %)

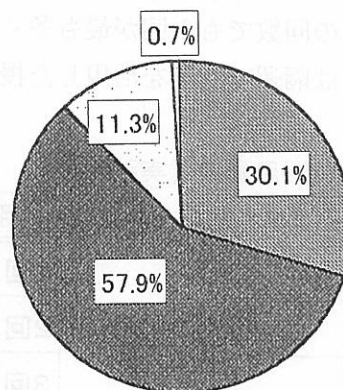


3. 新聞活用動向

新聞が提供されてからの、授業や教科外活動における新聞の活用頻度の変化を見ると、「かなり増えた」が30.1%、「少し増えた」が57.9%となっており、あわせて9割近くの学校で新聞の活用頻度が高くなっている。

学校に新聞が提供されてからの新聞を活用した授業や教科外活動の実践時間を尋ねたところ、下表の「10時間以上15時間未満」グループに含まれる10時間が最も多く、36人が回答した。次いで、「5時間以上10時間未満」グループに含まれる5時間が30人、6時間が22人となっており、回答が集中している。以下、2時間が24人、20時間が22人と続いている。なお、50時間以上という回答も20人から寄せられた。

3-1. 新聞活用頻度の変化



■ かなり増えた
 ■ 少し増えた
 □ 以前と変わらない
 ■ 無回答

3-2. 新聞活用動向（実践時間数）

実践時間数	回答者数
5時間未満	61
5時間以上10時間未満	68
10時間以上15時間未満	49
15時間以上20時間未満	19
20時間以上25時間未満	22
25時間以上30時間未満	4
30時間以上35時間未満	11
35時間以上40時間未満	1
40時間以上45時間未満	7
45時間以上50時間未満	1
50時間以上	20
無回答・不明	39

学校に新聞が提供されてからの新聞を活用した授業や教科外活動の回数を探ねたところ、週あたりでは1回が最も多く57人だった。また、週5回以上という回答も23人おり、毎日実践している教師も多いことがうかがえる。

月あたりの回数でも1回が最も多く39人だったが、2回が20人、4回が21人おり、毎週あるいは隔週で新聞を活用した授業を行う教師が多いことがうかがえる。

3-3. 新聞活用動向（実践回数）

週	回答者数	月	回答者数
1回未満	1	1回	39
1回	57	2回	20
2回	14	3回	6
3回	5	4回	21
4回	2	5回	7
5回以上	23	6回	0
		7回	1
		8回	9
		9回	0
		10~29回	5
		20回以上	7

新聞を活用している教科、領域等を尋ねたところ、小学校では「国語」(55.3%)がトップで、次いで「社会」(54.4%)、「総合的な学習の時間」(45.6%)となっている。中学校では「社会」(47.3%)が最も多く、次いで「特別活動」(33.3%)、「道徳」(28.0%)と続く。高校では「地歴・公民」(51.6%)に続き、「国語」(47.3%)、「特別活動」(29.7%)の順になっている。

このように、教科では「国語」「社会」での実践が多く見られる。教科以外では「総合的な学習の時間」や「特別活動」などでの実践が多く見られる。高校でも平成15年度から「総合的な学習の時間」が本格実施されることから、増加が見込まれる。

3-4. 新聞活用動向(教科、領域)

区 分	小学校	%	中学校	%	高 校	%
国語	63	55.3%	13	14.0%	43	47.3%
社会、地歴、公民	62	54.4%	44	47.3%	47	51.6%
算数、数学	9	7.9%	1	1.1%	1	1.1%
理科	18	15.8%	5	5.4%	3	3.3%
生活	2	1.8%	—		—	
音楽	2	1.8%	2	2.2%	0	0.0%
図工、美術	5	4.4%	2	2.2%	0	0.0%
外国語	—		3	3.2%	3	3.3%
家庭、技術・家庭	4	3.5%	3	3.2%	3	3.3%
体育、保健体育	1	0.9%	3	3.2%	4	4.4%
道徳	25	21.9%	26	28.0%	—	
特別活動	45	39.5%	31	33.3%	27	29.7%
総合的な学習	52	45.6%	20	21.5%	10	11.0%

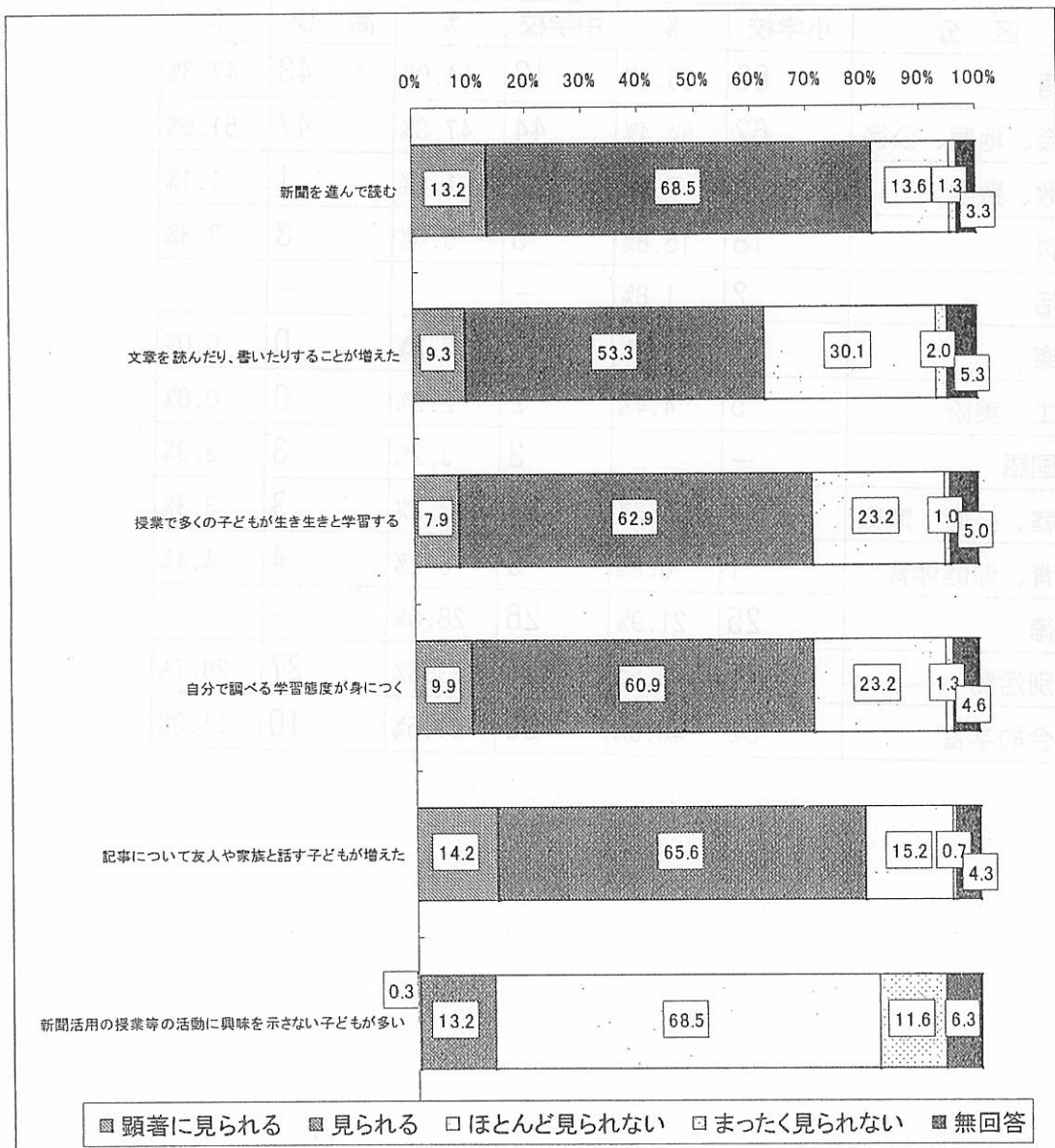
4. 新聞活用後の児童・生徒の変化

児童・生徒の変化では、「顕著に見られる」ものとして「記事について友人や家族と話す子どもが増えた」(14.2%)、「新聞を進んで読む」(13.2%)が多かった。

「顕著に見られる」と「見られる」の合計でも、「新聞を進んで読む」(81.7%)、「記事について友人や家族と話す子どもが増えた」(79.8%)が多かった。

また、「文章を読んだり、書いたりすることが増えた」「授業で多くの子どもが生き生きと学習する」「自分で調べる学習態度が身につく」の各項目も6～7割を占めており、NIEの効果がうかがわれる。

4. 新聞を活用して児童・生徒にどのような変化が見られたか



5. 新聞活用の難しさと期待

新聞活用において感じている難しさについては、順位を付けて二つ回答してもらった。

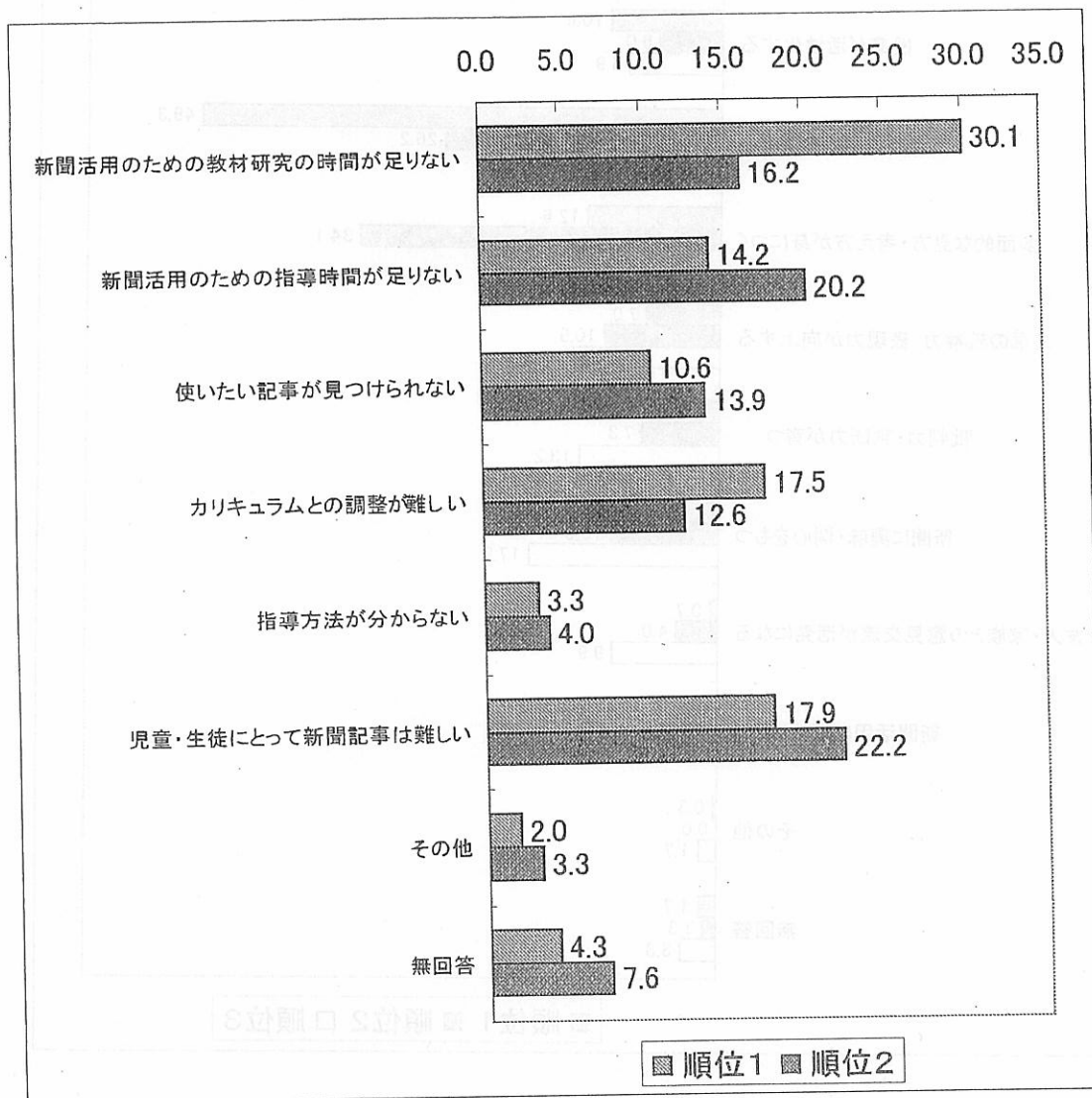
順位1では「新聞活用のための教材研究の時間が足りない」(30.1%)が最も多く挙げられた。これに「児童・生徒にとって新聞記事は難しい」(17.9%)、「カリキュラムとの調整が難しい」(17.5%)が続いている。

順位2では「児童・生徒にとって新聞記事は難しい」(22.2%)が最も多く挙げられた。これに「新聞活用のための指導時間が足りない」(20.2%)、「新聞活用のための教材研究の時間が足りない」(16.2%)が続いている。

新聞を教材として利用するための研究時間の不足、記事の難しさが、主要な課題となっている。

5-1. 新聞活用の難しさ

(単位 %)



新聞活用に期待している点についても、順位を付けて三つ回答してもらった。

順位1では「社会への関心を高める」(49.3%)が突出して多かった。

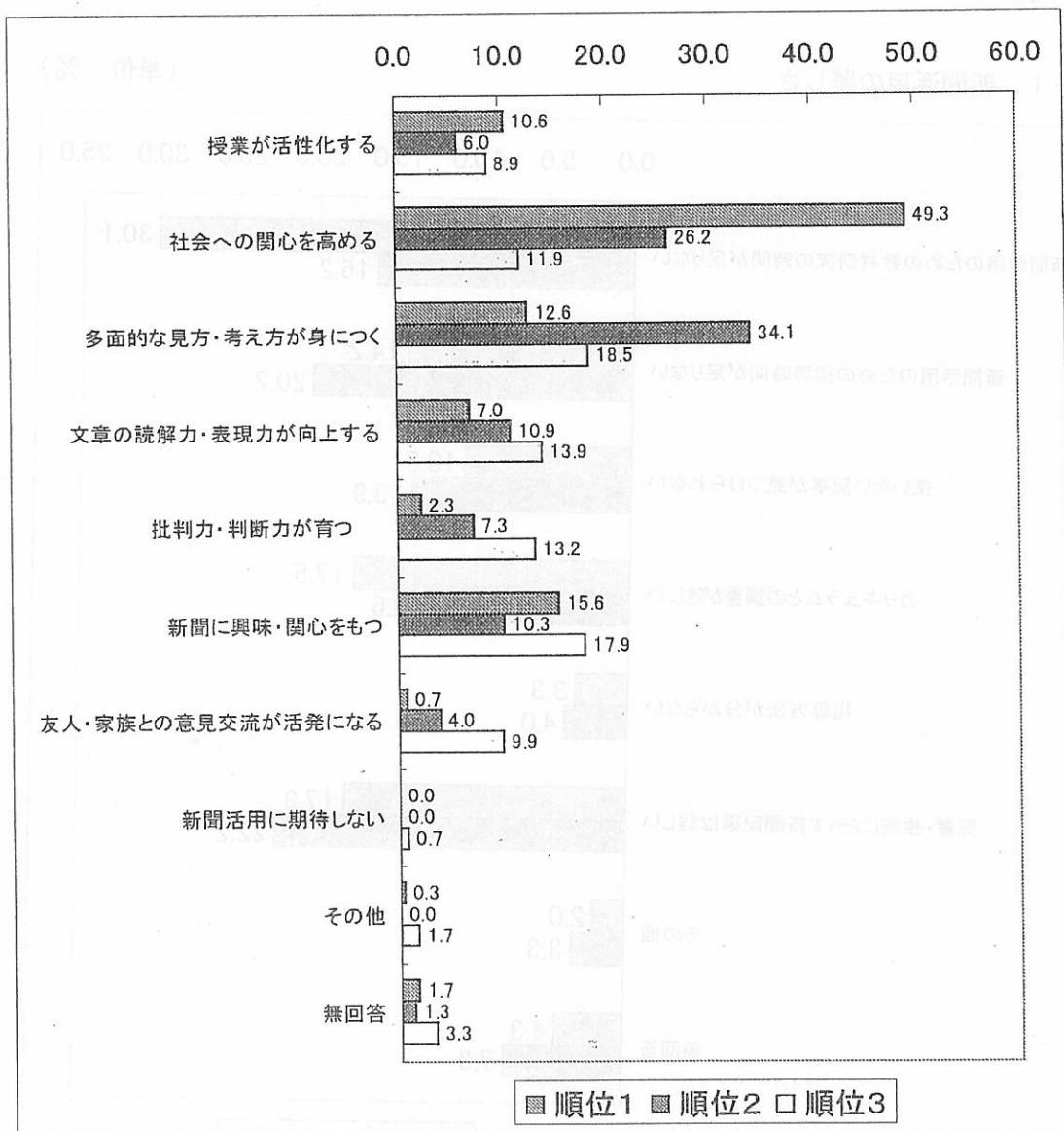
順位2では「多面的な見方・考え方が身につく」(34.1%)、「社会への関心を高める」(26.2%)が多く挙げられた。

順位3では「多面的な見方・考え方が身につく」(18.5%)、「新聞に興味・関心をもつ」(17.9%)が目立った。

児童・生徒が社会に目を向け、多面的な見方・考え方を身につけるために、新聞に期待が集まっている。

5-2. 新聞活用の期待

(単位 %)



N I E 実践効果測定調査を読んで

日本新聞教育文化財団N I Eコーディネーター 加瀬 雄二

N I E活動が1994年度に全国展開してから96、98年に次ぐ3回目の「N I E実践効果調査」である。前2回の調査と同様、新聞活用授業はおおむね子どもたちに好結果をもたらし、先生方も手応えを感じているようである。とりわけ02年度（高校は03年度）から全面実施された新学習指導要領が強調している「自ら学び自ら考える力を育成する」ことに、大きな効果を上げていることがうかがえる。しかし、小、中、高校と上になるほどN I Eに対する関心が薄れる傾向が見えるなど、課題も浮き彫りにされた。

まず、児童・生徒の「よく読む記事」についてみると、前回調査と同じ様にN I E実践前後に関係なく「ラジオ・テレビ欄」が10人中7～8人と圧倒的に多い。だが、「社会」「教育・学校」「外国」「地域」のニュースについては、N I E授業をやったことで大きく伸びていた。「N I Eで何に関心を持つようになったか」の問いで「事件・事故や社会のこと」「外国のこと」「環境や健康・福祉に関すること」が上位を占めていることと合わせ、子どもたちの目が広く、多様な社会や外国に向けられるようになったことを示している。これは先生方がN I Eに期待する「社会への関心を高める」「多面的な見方、考え方が身につく」を見事に実現している。

また、N I E授業をしたことで「何が好きになったか」では2人に1人が「文章を読むこと」と答え、3人に1人が「自分で調べて詳しく知ること」「他の人の意見を聞くこと」を挙げている。先生から見た「子どもの変化」でも「新聞を進んで読むようになった」「自分で調べる学習態度が身についた」が大半を占めており、まさに新聞活用授業は新学習指導要領がうたう「自ら学び考える力」を育成、新要領の目玉である総合的な学習の時間がめざす「主体的な学習能力の向上」に効果を上げていると言える。

もう一つ注目すべきは、N I Eのこれからの柱であるファミリー・フォーカス——家族を巻き込んだ自宅学習が、進んでいることである。子どもたちは新聞を読むことによって家族、友人との会話を大幅に増やしているのだ。

だが、課題も多い。小、中、高校生とも相変わらず新聞の閲読時間5分未満が多く、読む記事はラジオ・テレビ欄が圧倒的となれば、実態は「読む」ではなく「見る」に終わっているのではないか。また、「N I Eを面白い」と答えた児童・生徒は全体では74%を占めたが、小学生84%、中学生73%、高校生67%と高学年になるほど低くなっており、高校生の3人に1人は「面白くない」と答えている。この傾向は他の設問でも見られる。受験勉強などで余裕がないのだろうか。小、中学校で培ったN I Eを、ぜひ生涯学習として実践していった欲しいものである。一方、先生方があげた「子どもたちにとって新聞記事はむずかしい」という注文にも、新聞界はこたえていかねばならないだろう。

以上